

第2回 校長会議あいさつ

R7.4.22 稲垣

学級開きが終わり、担任との出会いから2週間が過ぎました。学級を円滑に安定させるためには、クラス全員の心が動く活動が大切です。さしずめ中学校なら定番の級訓決めでしょうか。小学校でも、学年の発達段階に応じた学級活動や行事を工夫したいものです。

本日は、学校経営における生徒指導について、確認したいと思います。生徒指導上の諸課題への対応は、「早期発見・早期対応」が定石です。学校が、保護者や地域の方とともに、児童生徒を見守る中で、いじめや不登校の兆しとなる子どもの変調にいち早く気づき、組織的な対応をすることが肝要です。不登校やいじめ等の対策については、学校教育は、既に20年以上にわたり、有識者や関係諸機関の協力を拡充しながら取り組んできていますが、SNSの影響や個別の配慮を要する子どもの増加など、要因の複雑化、多様化が進み、未だに予断を許さない状況です。これからも一層の取り組みを継続していかなくてはなりません。

近年、いじめについては、大人が子どもたちの人間関係に積極的に介入することにより、解決に導こうとする風潮が見られます。平成25年のいじめ防止対策推進法を起点に、いじめの定義から重大事案の対応まで、方針やガイドラインが出されました。社会全体の関心が高まり、子どもたちを見守ろうとする大人が増えたことは良かったものの、いじめの定義が被害者視点に偏重していることが、子ども集団の健全なモラル形成に障らないか心配でもあります。また、不登校については、生徒指導上の問題から、教育課題と位置付けを変え、学校以外の受け皿を整備したり、教育課程を柔軟化させていくことで対応していく傾向にあります。

以上のように、生徒指導上の諸課題について、一般的には、起きてからの対応、言わば対処療法を中心に考えがちですが、学校では根治療法の視点から、生徒指導上の諸課題を未然防止できるように、子どもを取り巻く環境全体に手を入れていくことも重視すべきと考えます。不登校やいじめを未然に防止するためには、子どもたちが、自己肯定感を高められるような教育活動を展開し、子ども集団の健全な価値観やモラルを醸成することが重要です。具体的には、子どもたちが夢中になって取り組める学校行事や、仲間と力を合わせて問題解決をしていく学習によって、学校での安心感や集団所属感を高めるとともに、特別活動や学校行事の運営を子どもたちの判断に委ねたり、個別最適化による学習によって主体性や自己肯定感を強め、子どもたち本来の活力を増大させることです。これからも、今まで以上に、未然防止に立脚した教育活動を推進する学校経営をお願いいたします。